

生年月	1985年2月中国瀋陽生まれ
最終学歴	2011年京都大学大学院工学研究科建築学専攻
業務履歴	2011年大和ハウス工業(株)入社 2015年大和ハウス工業(株)退社 2015年(株)日建設計入社 現在、構造設計グループ 構造設計部所属
●担当した主なプロジェクト	
2015年	徳島赤十字病院（西棟）
2016年	関西外国語大学 御殿山キャンパス・グローバルタウン敷島製パン刈谷工場
2017年	日東電工株式会社 尾道事業所 N1棟
2018年	心斎橋ホテル
2019年	山陽放送株式会社 RSKイノベティブ・メディアセンター

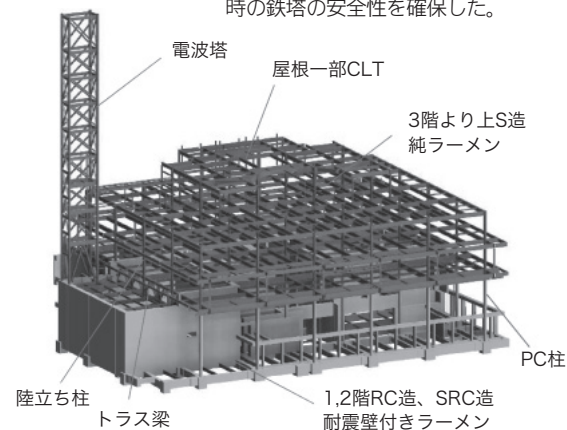
来日16年、このうち構造設計者としては10年になりました。構造設計者としての前半は平屋の1000㎡未満の建物を中心に設計し、後半は大規模建物や超高層ビルなどをはじめ、免震、制振建物を経験しました。一人の外国人として日本にて10年間構造設計ができたのは、本当に様々な方のご協力であることを感じ、感謝致します。

構造設計に対して感じるのは構造設計が泥臭い仕事だと思っています。どんなに大きい建物でも、一つ一つの部材の安全性の確認から始まると思います。安全確保のため、日々の知識の積み重ねが必要と思っています。また、モノづくりを知ることでも大事で、製造現場や建設現場に頻繁に足を運ぶことが大事だと思っています。意匠設備構造の融合は、一回一回の打ち合わせの積み重ねからできていると思います。社会に価値のある建物や愛される空間を提供できるように、これから日々、研鑽に努め、視野を拡大していきたいと思っています。

吉田 聡
(株)日建設計 構造設計グループ
ディレクター

外觀パース

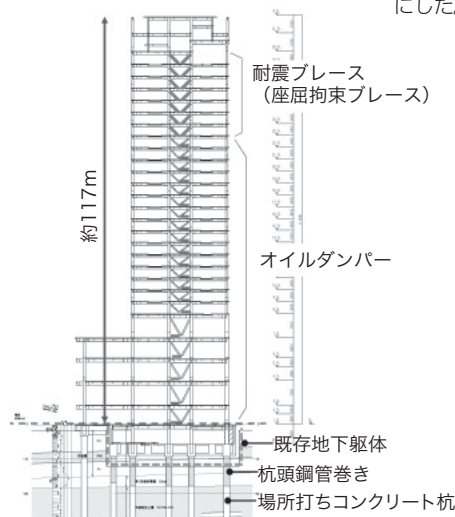
上部構造は、1、2階をスタジオAと楽堂ホールの外周に配置した鉄筋コンクリート造耐震壁により剛性と耐力を確保し、柱梁はSRC造を主体とした。3階以上の階については事務室としてのフレキシビリティを最大限確保するため、9.3mスパンの正方形グリッドに柱を配置した鉄骨造の純ラーメン架構とした。各ホールは3階以上の事務室の直下に位置しており、各ホール上部の大断面鉄骨梁により陸立とした。免震構造の特性をいかし、異なる構造



構造パース

電波塔は最高高さ49.5mであり、軽量で塔状比が大きい躯体になるため、風荷重時空力不安定振動が励起される恐れがある。これを避けるために、空力不安定振動を発生する恐れがある一次固有周期よりも短い固有周期にて鉄塔を設計した。また、「地上デジタル放送用送信設備共通仕様書」に規定された設計用風荷重（建築基準法風荷重の2倍以上）より鉄塔の設計を行い、風時の鉄塔の安全性を確保した。

本建物は大阪のメインストリート、御堂筋の沿線に計画する超高層ホテルである。「表向きは物静かな装いで、内側は豪華さを極める」という設計コンセプトで、外装はグレー色のガラスカーテンウォールとした。建物の内部構成は、1階にエントランスホール、ホテルレストラン及びテナント用物販店舗、3階に宴会場などの用途に備えたボールルームや会議室、4階にはホテルレセプション及びホテル飲食ゾーン、6階にはスパ・ジムゾーン、8階から29階（基準階）に客室を配置している。

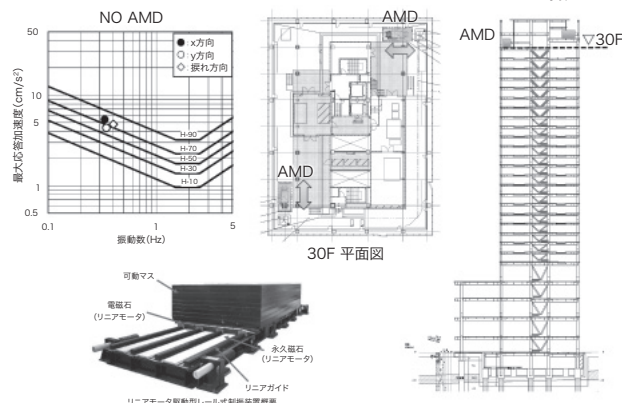


軸組図

地上部分はS造とし、柱は主にコンクリート充填鋼管（CFT）を用いた。架構形式は、センターコア部分に配置した速度依存ダンパー（オイルダンパー）によりエネルギーを吸収する制振構造とした。7階の設備トレンチ階にはトラスを設けることで、上階の陸立ち柱を支持し、地震時には速度依存ダンパーのエネルギー吸収効率を高めた。23階以上は、センターコア部分に座屈拘束ブレースを配して剛性と耐力を確保した。屋上にAMDを設置し、再現期間1年の風荷重時居住性をH-50にした。



外観パース



屋上AMD